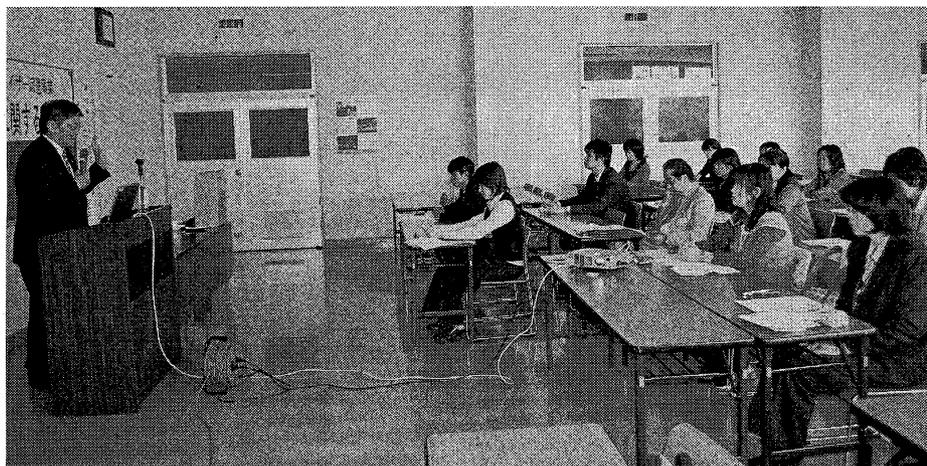


「被害者の孤立防いで」

市職員対象、DV研修会



DVに関する研修会で対応のノウハウを学ぶ職員たち

登別市職員を対象としたDV（ドメスティックバイオレンス＝配偶者などからの家庭内暴力）に関する研修会が28日、市内富士町の市民会館で開かれ、相談業務などに当たる約30人が理解を深めるとともに、対応に向けたノウハウを学んだ。DVに関する認識を深め被害者の保護、支援に役立てるのが目的で、平成15年度から毎年開催している。

今回は、おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ理事長で弁護士の川崎政宏氏が講師を務め、「DV・虐待のない社会づくりに向けて」のテーマで語

った。

川崎氏は「DVは女性だけの問題ではない。男性の問題でもあり、子供たちの視点から見る必要がある」と前置き。「DVは犯罪だということが浸透してきているが、暴力を振るっている側、振られていない側とも自覚が乏しいだけに深刻だ。孤立した状態になつて先が見えにくく、不安になつてまた戻つてしまつ。選択する力を奪われる」と被害者心理に触れた。

「少し我慢したら」などといったアドバイスがちなが、余計孤立することを注意を促し、「息の長い予防啓発、次につながる情報提供、相談窓口の連携など、きちんと支える総合的取り組みが必要」と強調した。

引き続き、登別市の支援事例を基にグループ討議が行われ、参加者たちは専門的なアドバイスを受けながら、今後役立てよう」と議論を深めていた。

（野崎己代治）

対応に際しては「も